

緑区東丘学区

災害時避難行動マップ

～死者ゼロ・火災ゼロ・逃げ遅れゼロを目指して～

この避難行動マップは、大規模な地震や風水害が発生した場合を想定し、東丘学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所や避難経路などについて話し合い、作成したものです。避難行動マップをもとに、「いざ」という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。

指定緊急避難場所

・洪水・内水氾濫、土砂災害、大規模な火事などの、**目前に迫った危険から命を守るための場所**です。

指定緊急避難場所	洪水・内水氾濫	土砂災害	地震の揺れ	大規模な火事
東丘小学校	○	○	グラウンド ×	×
東陵中学校	格技場	格技場	グラウンド ×	×
東丘コミュニティセンター	○	○	×	×
米塚特別緑地保全地区			○	×

指定避難所

火災や家屋の倒壊、家具の転倒などにより、自宅に住むことが出来なくなった方が、一定期間、避難生活を送るためのところです。

- 東丘小学校 (TEL621-7181)
- 東陵中学校 (TEL623-9777)
- 東丘コミュニティセンター (TEL624-2006)

【重要】 指定避難所の収容人数には限りがあります。避難所での生活は環境の変化から体調を崩す方も多いため、自宅避難生活を送れるように、家具の固定と、7日分の備蓄を進めましょう。

気を付けて！(風水害編)

1. マンホール・側溝
マンホールや側溝は足を取られる危険があるため、道路の中央や端を避けて避難する。



2. アンダーパス、よく冠水・浸水の場所
掘り下げ式の道路であるアンダーパスやよく冠水したり、過去に浸水した場所は浸水している可能性があるため、避けて避難する。

気を付けて！(地震編)

1. 空き家
耐震性が低いと倒壊しやすく、無人のため火災延焼の危険がある。
2. 古い(高い)ブロック塀
大きな地震では倒壊する危険があるためすく離れる。近づかない。
3. 狭い道
近くの家が倒壊した時、道がふさがれて通れなくなる可能性がある。
4. 電線
切れた電線は停電時でも感電の危険がある。近づかない。
5. 瓦屋根
大きな揺れの際には瓦の落下危険がある。瓦屋根のある家屋に住んでいる方は、あわてて外に飛び出さない。



あなたの自治会の一時的集場所

【役に立つ場所】

地域防災協力事業所	災害時に地域に対して支援協力してくれる事業所です。鳴海防災設備有限会社
公衆電話	NTTが設置する公衆電話は、災害時には優先的につながり、状況に応じて無料になります。
【その他】	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニ、スーパーなどの商業施設営業していれば物資の調達が可能 ・公衆電話が設置されている店舗あり ・病院、診療所など

【各自治会の一時的集場所】

災害発生直後は行政機関が十分に機能しないため、地域の皆さまによる安否確認、初期消火、救助活動が、被害の拡大を防ぐ大きな力となります。まず、自分の身、そして家族の安全を確認後、一時的集場所に集合して自主防災活動に参加しましょう。避難が必要な場合には、広い道路など安全な経路で指定避難所に向かいましょう。

番号	一時的集場所	自治会名	番号	一時的集場所	自治会名
1		東丘第1	11	尾崎山公園	東丘第7
2		東丘第2	12	姥子西公園	東丘第8(1)
3		東丘第3	13	東丘第2公園	東丘第8(2)
4	自治会防災倉庫前	東丘第3	14	パナソニック有松ビルエントランス	東丘第9(1)
5	有松公園	東丘第4	15	フォレストアレー有松ビルエントランス	東丘第9(2)
6	日本車輜社宅前	東丘第5(1)	16	東丘学童保育所みどりクラブ前駐車場	東丘第10
7	こどもみらい保育園	東丘第5(2)	17	敷田北公園	東丘第11
8	鳴海東公園	東丘第5(3)	18	鳴海東公園	東丘第12
9	姥子公園	東丘第6	19	鳴海東公園	鳴海団地第1・2・3
10	東陵中学校東門前		20	鳴海団地グラウンド	鳴海団地第4・5

凡 例

- 指定緊急避難場所
- 指定避難所
- 一時避難場所
- 地下式給水栓
- 土砂災害(特別警戒区域)
- WC
- 下水道直結式仮設トイレ設置場所
- AED設置箇所
- 公衆電話
- 土砂災害の発生のおそれがある区域

緑区 東丘学区

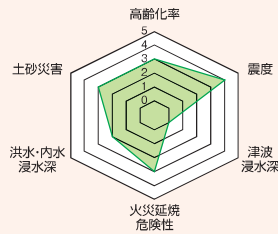
世帯：4,648 世帯 人口：11,588人 面積：1.212 km²
(令和2年1月1日現在推計人口より)

東丘学区では、南海トラフ巨大地震（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震の場合）が発生した場合、学区のほとんどの地域で震度6弱、一部の地域では震度6強が想定されております。まずは、自分や家族の身を守るために、日頃から家具の転倒防止などの家庭の地震対策に努めましょう。また、液状化が発生した場合は、建物が傾いたり、路上に泥水が流れ出し、通ることができなくなることがあります。これらを踏まえ、適切な避難先とそこまでの安全な経路を考えておきましょう。

当学区には一戸建ての住宅が密集している地域や道路の幅員が狭く消防車の通行が困難な地域があり、一度火災が発生すると広い範囲に燃え広がる可能性が高くなっています。日頃から火災を起こさないための対策をするとともに、大規模な火災の発生時に避難できる場所を確認しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	21.7%	3
震度	6強	4
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	500~1,000棟未満	3
洪水・内水浸水深	0.5~1.0m未満	2
土砂災害	警戒区域に人家10件以上	3



お住いの地域のことを知っておくことは大切です。ハザードマップをはじめとした災害リスクや避難先のほか、地形、歴史、建物状況（密集状況や古いブロック塀など）及び防災活動状況等を確認し、家族や自治会で話し合うなど、日頃から防災、減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

●参考資料として「地区防災カルテ」をご活用ください。
名古屋市 地区防災カルテ | 検索

災害が発生したら

一人ひとりの力を合わせて、大規模災害に立ち向かう!



- ◆まず、自分自身と家族の命を守ることが最優先です。その後、活動できる人は、隣近所、自治会などで助け合う「自主防災組織」として、自主防災会長を中心に活動します。(安否確認、声かけなど)
- ◆災害の恐れがなくなった後も、避難生活は続きます。自宅(在宅避難)が一番ですが、自宅に戻れない場合は、「避難所管理組織」のもと、避難所で助け合って生活します。
- ◆「災害救助地区本部」は、区本部の補助機関であり、学区の被害や必要物資などを整理して区本部(区役所)に伝えるほか、様々な防災情報を学区の住民に伝達します。

避難先へ安全に避難するための5つのポイント

- 1 ガス・水道の元栓を締め、ブレーカーを切る!
- 2 「一緒に逃げよう」近所への声かけ!
- 3 高齢者や障害者などの避難誘導を!
- 4 原則徒歩で!(渋滞抑止・高齢者や障害者などの避難を妨げない)
- 5 木造住宅密集地、がけ地や川の近くは避けて!

学区からのお知らせ

各家庭で非常持出品や一時集合場所、指定緊急避難場所、指定避難所などの確認をしましょう。

外国人の方へ (For Foreign Residents)

外国人に覚えてほしい防災のポイントを知ることができます。

You can find important disaster prevention information for foreign residents at the following website.

(<http://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/page/0000088955.html>)



一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日頃から一人では逃げられない方を把握し、地域みんなで、いち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えはこんな方
目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など。

対応方法
やさしい言葉でゆっくり声かけ
メモや身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えはこんな方
普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど。

対応方法
複数で手伝う
身近にあるものを利用する

事前に備えましょう!

火災から命を守るために「今」できること

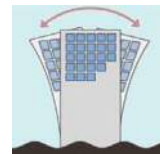
- 住宅用火災警報器を設置する。
寝室、寝室がある階の階段、台所に設置が必要です。火災を早く発見し、未然に防ぐだけでなく、隣近所への燃え移りを防ぐことができます。また、設置後も定期的に、動作確認をしましょう。
- 住宅用消火器等を設置する。
小型で軽く、取り扱いが簡単な住宅用の消火器や、片手で素早く使えるスプレー式で、天ぷら油などの火災に威力を発揮するエアゾール式簡易消火具を備えておくと、いざという時に役立ちます。
- 感震ブレーカーを設置する。
地震の揺れを感知すると、自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止するために有効です。
- 隣近所の協力体制をつくる。
「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって、隣近所で声を掛け合うなど地域ぐるみで「放火されない環境づくり」に努めることが放火対策の重要なポイントです。



マンションでの防災・減災

マンションは耐震性・耐火性のほか、保安面で優れていますが、大規模災害時には、長周期地震動による揺れ、火災延焼、エレベーター停止、断水等によるトイレの使用制限、住民の室内の様子が分かりにくい等マンション特有の懸念もあります。安心して生活するためにも、普段からの備えを進めましょう。

(例) 出典：気象庁ホームページ



- 高層建築物は、長周期地震動と共振して長時間、大きく揺れる。
(家具の転倒防止。できない場合でも部屋に「こごだけ安全!」という場所をつくる)
- 配水管が安全確認できるまでできるだけ水を使わない。
(下階に流れる汚水の逆流防止。簡易トイレ(便袋)などを活用)
- 地域コミュニティとの良好な関係
(日頃の挨拶・声掛け。熊本地震では地域と良好な関係を築いていたマンションに、地域の動きかけで支援物資が届いた事例がある)